【実施区域・面積】

大阪府・15.03ha

【生態系タイプ】

天然林、里山林、人工林

【実施区域の状況】

北摂山系の古刹本山寺の寺領であり、府内では唯一のまとまった「モミ・ツガ・アカガシ林」を有し、「重要里地里山(No27-6ポンポン山・本山寺・釈迦岳)」(環境省)、「巨樹巨木林」(環境省)、「特定植物群落」(環境省)に指定されている。その希少性・学術的価値から、1978年「大阪府自然環境保全条例・大阪府自然環境保全地域特別地域第一号」に指定された14.32haが当サイトである。さらに一帯は「本山寺国有林」「ヒノキ母樹林」(昭和46年)など、幾重にも公的保護の対象とされている。

【目標】

本地域の自然と、森林がもたらす生態系サービスを維持し次世代に引き継ぐため、継続してムササビが生息できる健全な森林の更新を目指す。
各主体間で情報共有し、当地の自然の希少性、価値の普及啓発に努める。

【主な活動内容】

・森林動態と野生生物相の現況の把握　・情報共有と当地の自然の価値の普及
・各主体と連携し、シカ密度のコントロールにアプローチ

【モニタリング計画】

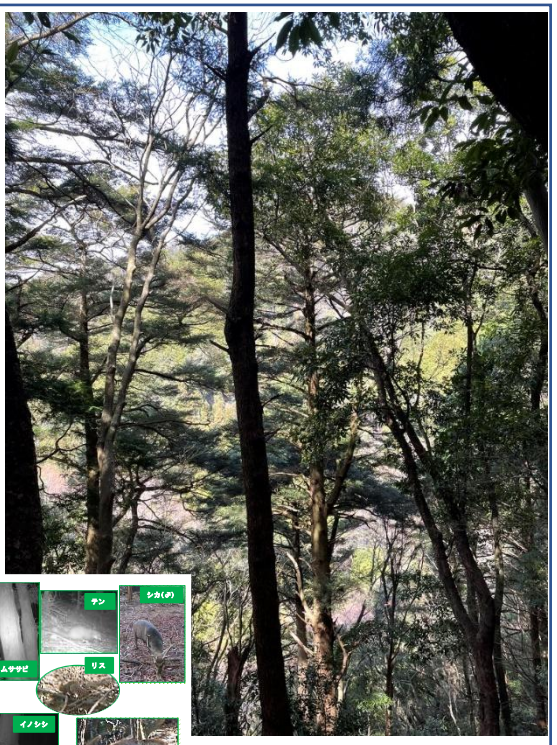
●哺乳類：カメラトラップ、フィールドサイン調査（年６回）、シカ糞塊調査（11～2月）、シャーマントラップ(ノネズミ調査、計画期間中春季秋季各1回)、コウモリ類標識調査（6～12月、２回/年）　●鳥類標識調査(3～12月、2日×10回)　●木本（実生調査、植生保護柵2基内外2カ所、秋季１回）

【実施体制】

主として協議会メンバーで実施。協議会アドバイザーの大阪市立自然史博物館佐久間大輔学芸課長、京都大学農学研究科高柳敦准教授、奈良教育大学松井淳特任教授（NPO法人森林再生支援センター理事長）より随時助言及び実施協力他、独立行政法人大阪環境農林水産総合研究所生物多様性センター幸田良介主任研究員、甲南高校元教師の恩地実氏指導協力。



モミ・ツガ・アカガシ林



協議会リーフレット



勧請掛

【計画期間】

2025(令和7)年９月～2030(令和12)年3月